

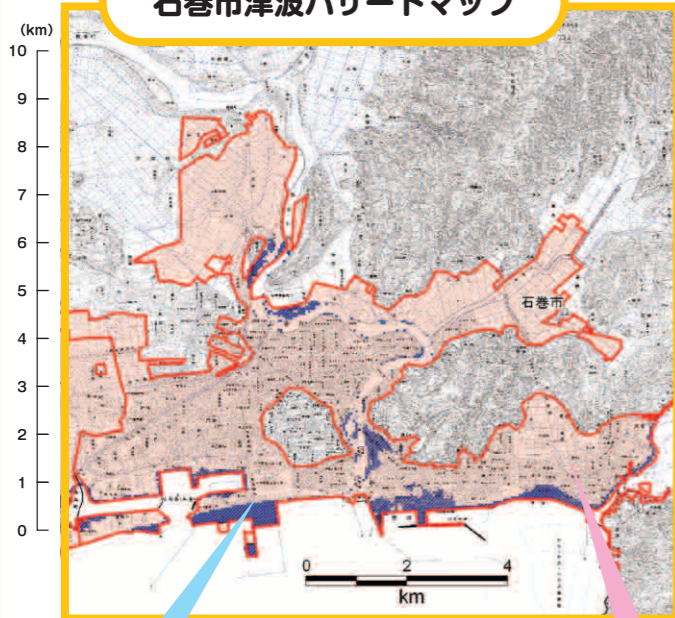
想定や経験をこえた東日本大震災

東北地方をおそった津波

2011（平成23）年3月11日、太平洋三陸おきで発生した東北地方太平洋沖地震は、長さ約500km、幅約200kmという広い震源域をもつプレート境界型地震のため、それまで想定されていたマグニチュード7.5の約180倍の大きさの、マグニチュード9.0の大地震になりました。

岩手・宮城・福島^{ふくしま}の3県の広いはん囲に10mをこえる津波が来て、岩手県宮古市重茂姉吉地区では、津波が40mの高さまでかけ上がりました。湾の中で、津波がより大きくなったといわれています。

石巻市津波ハザードマップ



（内閣府東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会の資料による）

石巻市の地形図



ハザードマップで青くぬられた部分は宮城県石巻市で、想定されていた津波でしん水するはん囲です。

しかし、想定をこえる10mの大津波が来たため、赤色にぬられた街の大部分がしん水しました。

左上のハザードマップで赤色にぬられた津波によりしん水した部分と、右上の地形図を比べてみて、何がわかるかな？



福島第一原子力発電所の事故

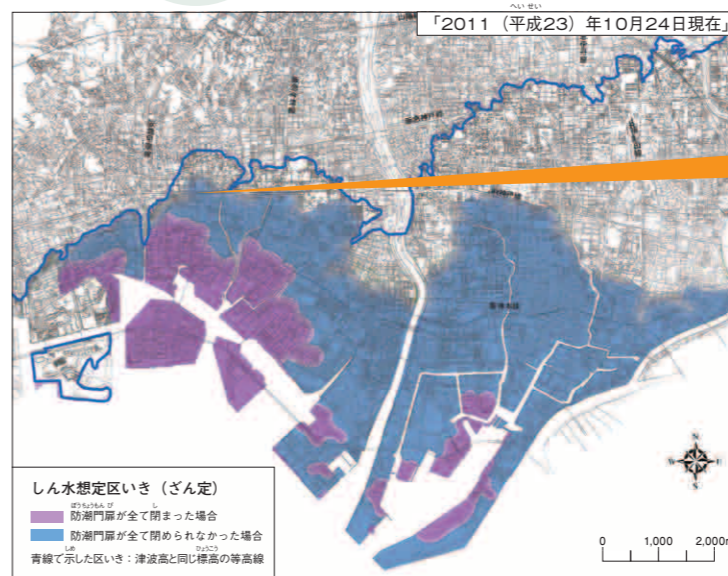
福島第一原子力発電所では、地震と津波のえいきょうで事故が起こり、放射能物質が放出されました。この周りには、多くの人がひなんし、不自由な生活を送っています。また、広いはん囲で農業などの産業にえいきょうが出ています。ひ害のかく大や同じような事故の再発の防止のため、2012（平成24）年2月現在、調査が進められています。



▲福島第一原子力発電所 (写真提供 産経新聞社)



兵庫県津波被害警戒区域図（平成23年10月暫定）



▲西宮市街（海から約1400m）

多くの市町では災害を想定したハザードマップを公開しているわ。

災害は、想定をこえることもあると考えて行動することが、命を救うことになるんだよ。



東日本大震災の教訓をふまえて、兵庫県では、これまで想定していた津波の高さをざん定的に2倍程度とし、その津波高と同じ高さの等高線をけいかい区いきとして作成しました。

実際に津波がおよぶはん囲は、地震の大きさにより、これを上回る場合も、下回る場合もあるので注意が必要です。

ひ害の想定については、平成24年中にも見直され、こう新されていくことになります。

